

（Chapter 3）IRの技能 理論編

—調査票の設計からフィードバックまで—

Chapter 3の内容

- ①調査票の設計
- ②データの収集
- ③データの整理
- ④データの集計・分析
- ⑤現場へのフィードバック



（講師）溝口 侑 Yu Mizoguchi

京都大学大学院教育学研究科博士後期課程

E-mail mizoguchi.yuu.62x@kyoto-u.jp

Chapter 1.2のおさらい

■ Chapter 1

- IRの歴史的背景から大学で発展してきたIRの現状を参考に、高校でのカリキュラム・マネジメントのなかでIRが果たす役割について解説しました。

■ Chapter 2

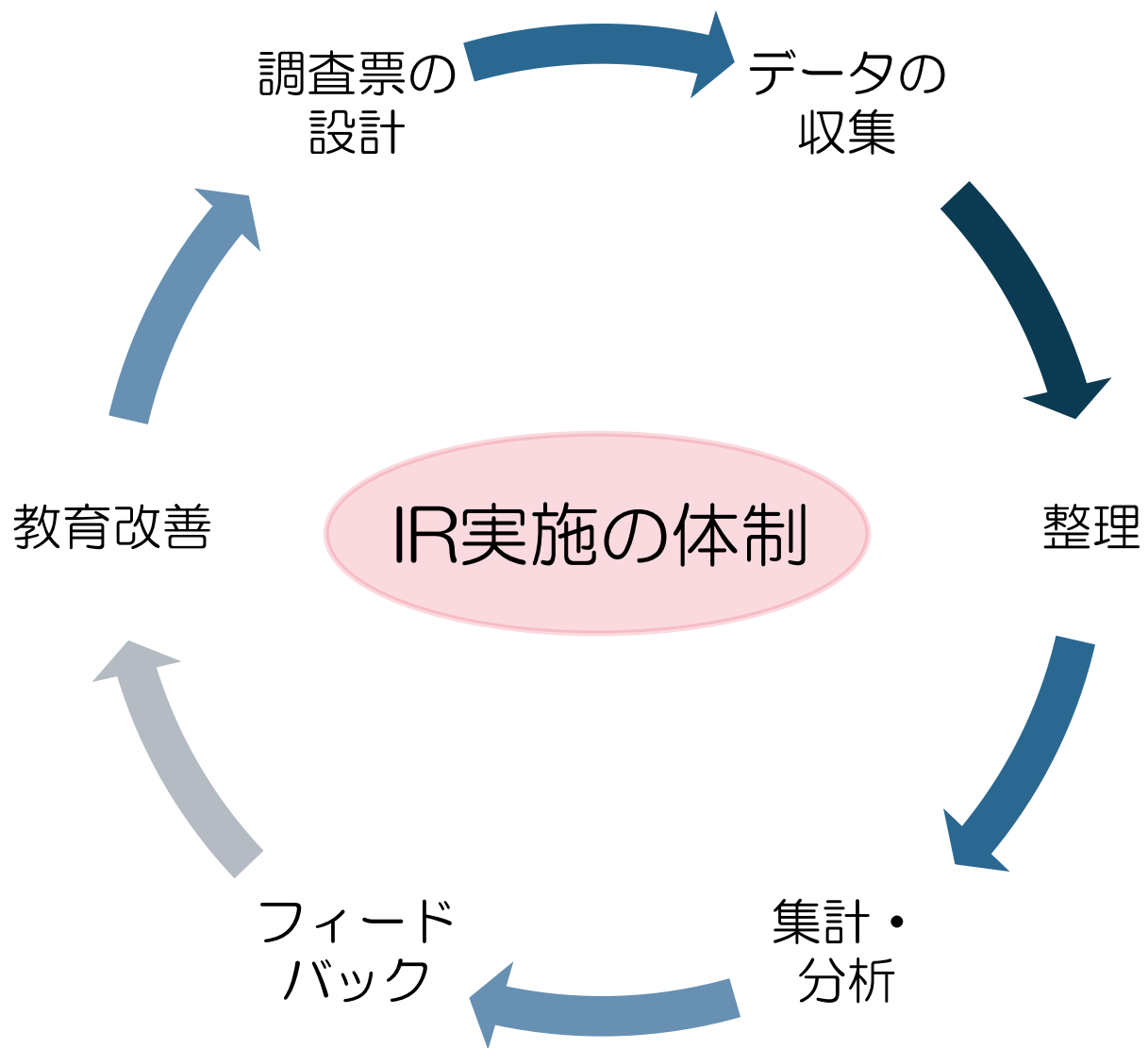
- 桐蔭学園高等学校を事例に、どのような取組みをしているかを紹介してもらいました。



Chapter 3, 4では実際にIRを始めるにあたって、
注意すべきポイントについて解説をしていきます。

Chapter3の内容

- ①調査票の設計
- ②データの収集
- ③データの整理
- ④データの集計・分析
- ⑤現場へのフィードバック



IR実施の体制の構築のポイント

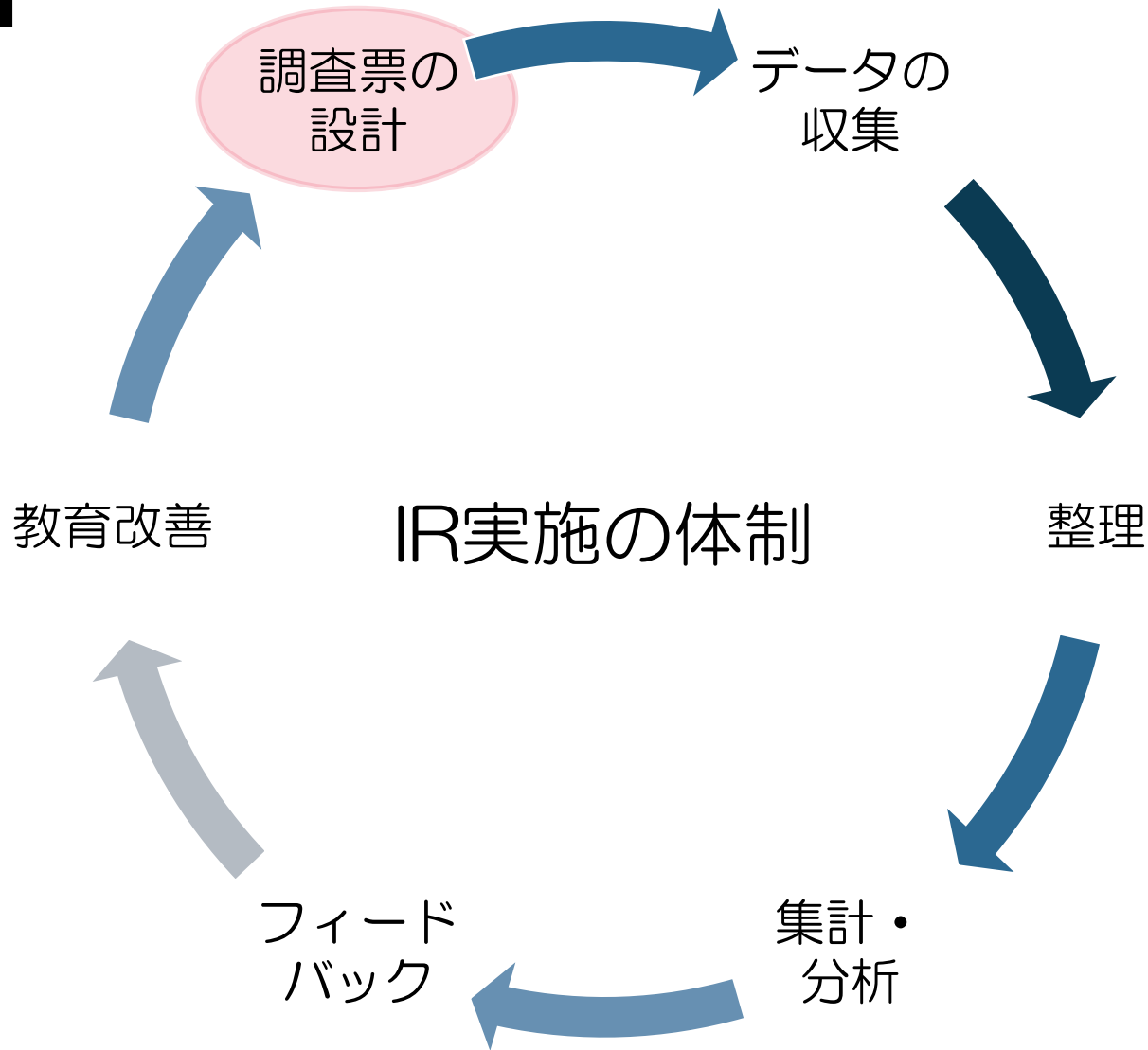
IRは学校全体で取り組むもの



だれが・どの部署が

- 調査全体を監修するのか？
- データを分析するのか？
- データを管理するのか？

1



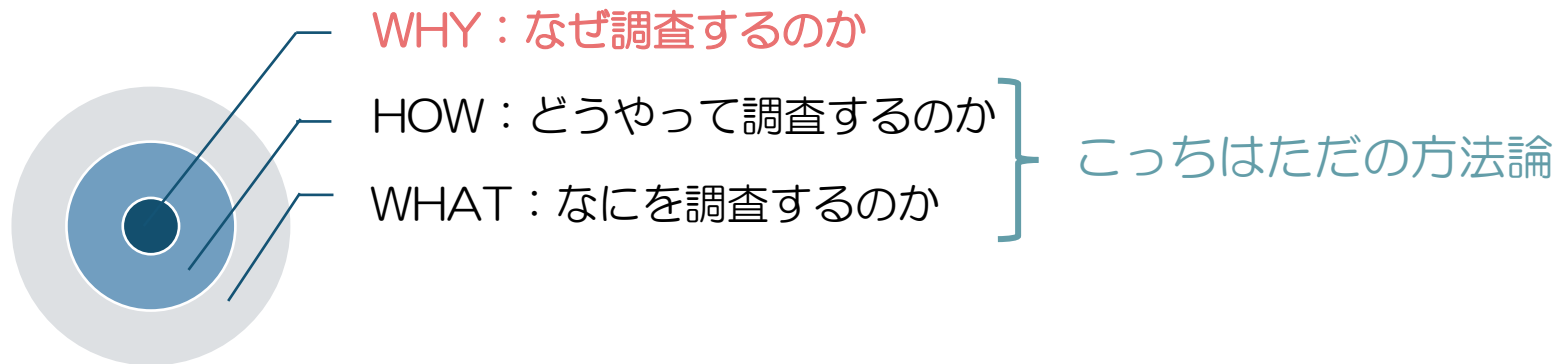
調査票の設計におけるポイント

- <問い>に基づく調査票設計
- 横断調査と縦断調査
- ベンチマーク指標と学校独自の指標

＜問い＞に基づく調査票設計

1. 問いなき調査は長期的IRの頓挫に直結する

- 「**なんでこの調査やっているんだっけ**」の部分が明確でないと担当教員の異動、予算の再編成などのタイミングで頓挫してしまう



2. 統計は魔法の道具ではない

- データ取ってきて**分析して** **大きな勘違いです** こと全部わかるんですか？
- 生徒1人1人の成**績を分析して** **大きな勘違いです** こと全部わかるんですか？

横断調査と縦断調査

■ 2つの問い

1. 調査時点の生徒の様相（+教員の意識）が知りたい（横断調査）
2. 生徒が成長の様相（+教員の意識の変化）が知りたい（縦断調査）



高校生

例えば桐蔭学園高等学校の例でいうと

- 生徒の意識のベンチマーク指標との比較

横断調査と縦断調査

■ 2つの問い

1. 調査時点の生徒の様相（+教員の意識）が知りたい（横断調査）
2. 生徒が成長の様相（+教員の意識の変化）が知りたい（縦断調査）



本取組では

縦断調査をしていくことを前提とした説明をしていきます。

縦断調査をするときのポイント

- 調査は続く・・・データはたまる一方・・・



	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	・・・
生徒A						
生徒B	2017年度入学時データ					
・・・						

	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	・・・
生徒A						
生徒B	2019年度3年生卒業時データ					
・・・						

	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	・・・
生徒A						
生徒B	2020年度大学1年生データ					
・・・						

縦断調査をするときのポイント

- 卒業しても追跡できる生徒IDを発行する

入学時点で
一人一人に
生徒IDを発行する



様々な調査を
バラバラに管理する
のではなく、
生徒IDに紐づけて
一元管理する

	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	...
生徒A						
生徒B						
...						

2017年度入学時データ

	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	...
生徒A						
生徒B						
...						

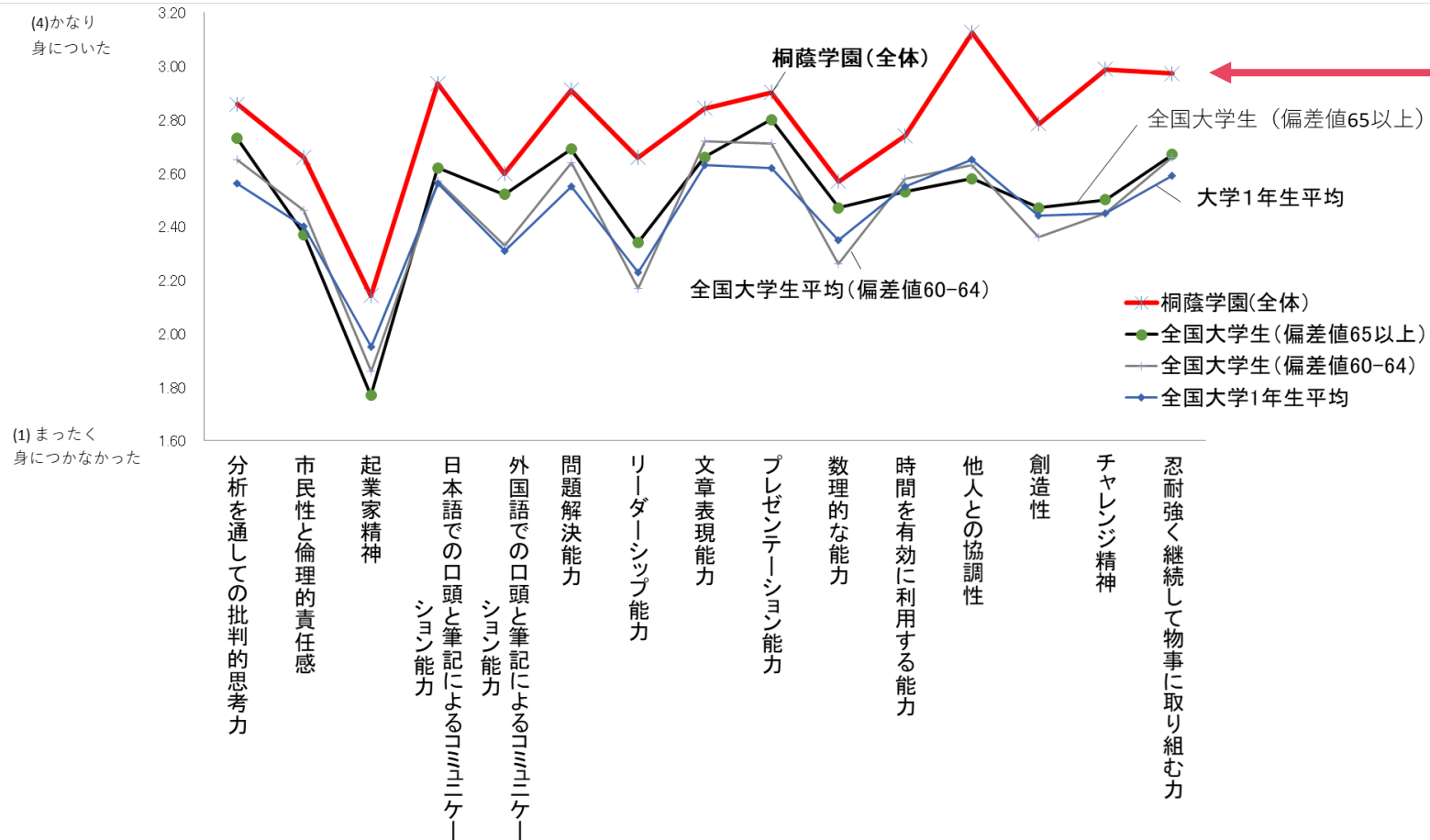
2019年度3年生卒業時データ

	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	...
生徒A						
生徒B						
...						

2020年度大学1年生データ

ベンチマーク指標

全国的な自校の立ち位置を確認するために ベンチマーク指標を調査に盛り込む



ベンチマークがなければ、この得点在实际にどういう意味をもつのか解釈することが難しい

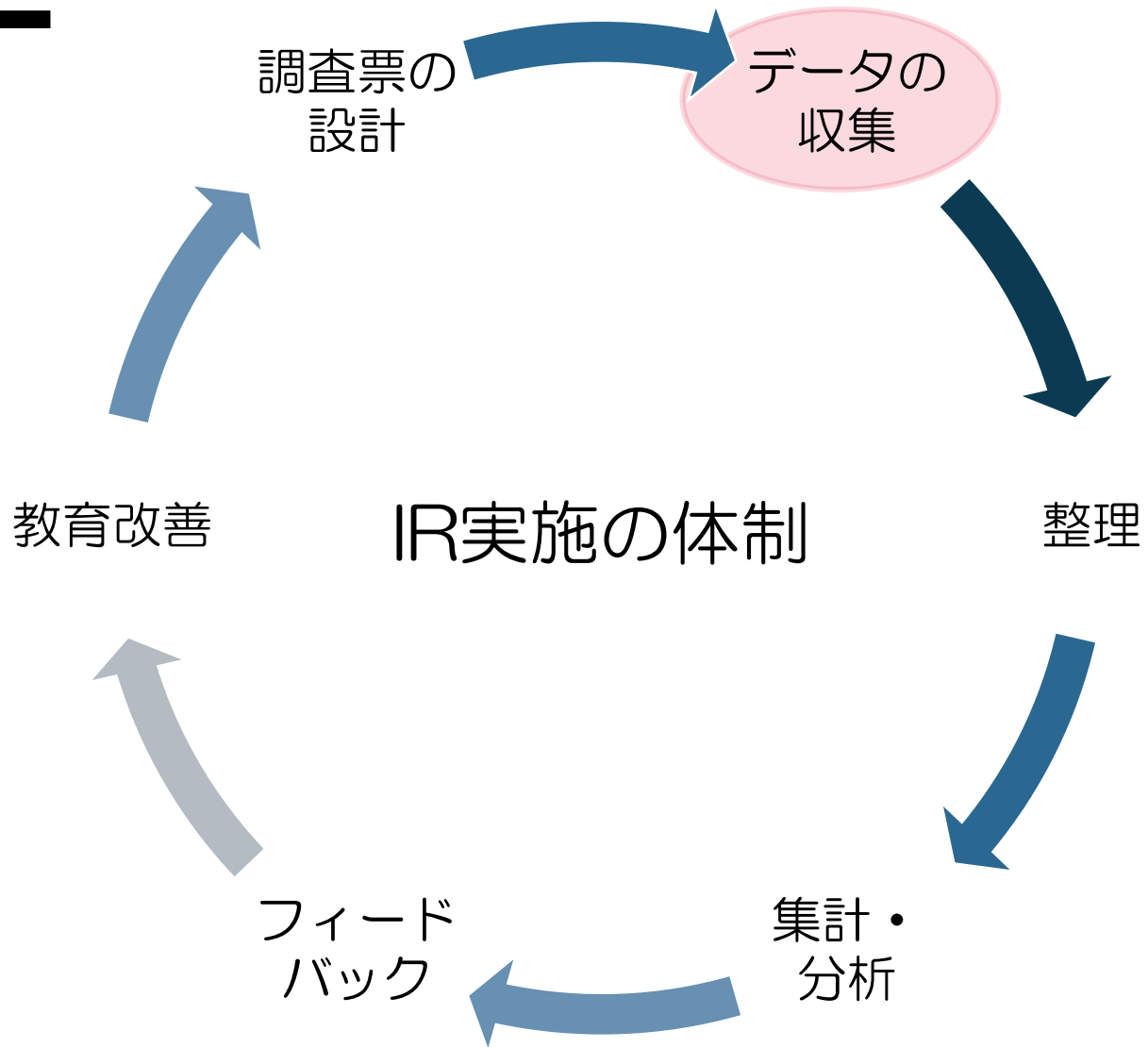
ベンチマーク指標と学校独自の指標

■ メリットとデメリット

	ベンチマーク指標	独自指標
メリット	<ul style="list-style-type: none">■ 他の学校と比較ができる■ 質問項目の信頼性が担保されてる	<ul style="list-style-type: none">■ 自校の問題意識に基づいた調査をできる
デメリット	<ul style="list-style-type: none">■ 自由に設問を追加できない■ 不要な質問項目が入る場合がある	<ul style="list-style-type: none">■ 他の学校と比較ができない■ 質問項目の信頼性が担保されていない

- 本取組ではベンチマーク指標による調査を基本としながら、自校の問題意識に基づいた独自指標を用いた調査を支援します。

2



データの収集におけるポイント

- 学内のコミュニティ形成
- オンライン調査

学内のコミュニティづくり

- データを“**集める**”ということに意識が集中しがちだが、
そもそもデータを“**集められるか**”という問題を解決しなければならない



- 調査に“**回答するだけ**”という状態から
学校を“**一緒に作っていく**”コミュニティの構築
 - 一度きりの調査で終わるのではなく、学校と生徒・保護者の信頼関係の上にIRが成り立つ
 - 調査に協力することが自分の学校の教育改善に役立つという意識を在学中から築いていく
 - IRに関する倫理については**Chapter4**で詳しく扱います

オンライン調査への移行

■ 重要なことは分析の“**その先**”

- 調査票の設計 → データの収集 → 整理 → 集計・分析
→ フィードバック
- しかし、ここまで時間がかかりすぎてしまうせいでせっかくの調査も必要ない結果になってしまう



■ そこに至るまでの手間を可能な限り省く

- 紙での調査から脱却し、オンラインでの調査体制を整える
- Google Formでのアンケートの設計方法は参考資料を参考にしてください

おすすめは



※商業的な宣伝ではありません

SurveyMonkey®

■ Survey Monkey (<https://jp.surveymonkey.com/>) のメリット

1. フォーム設計がしやすい

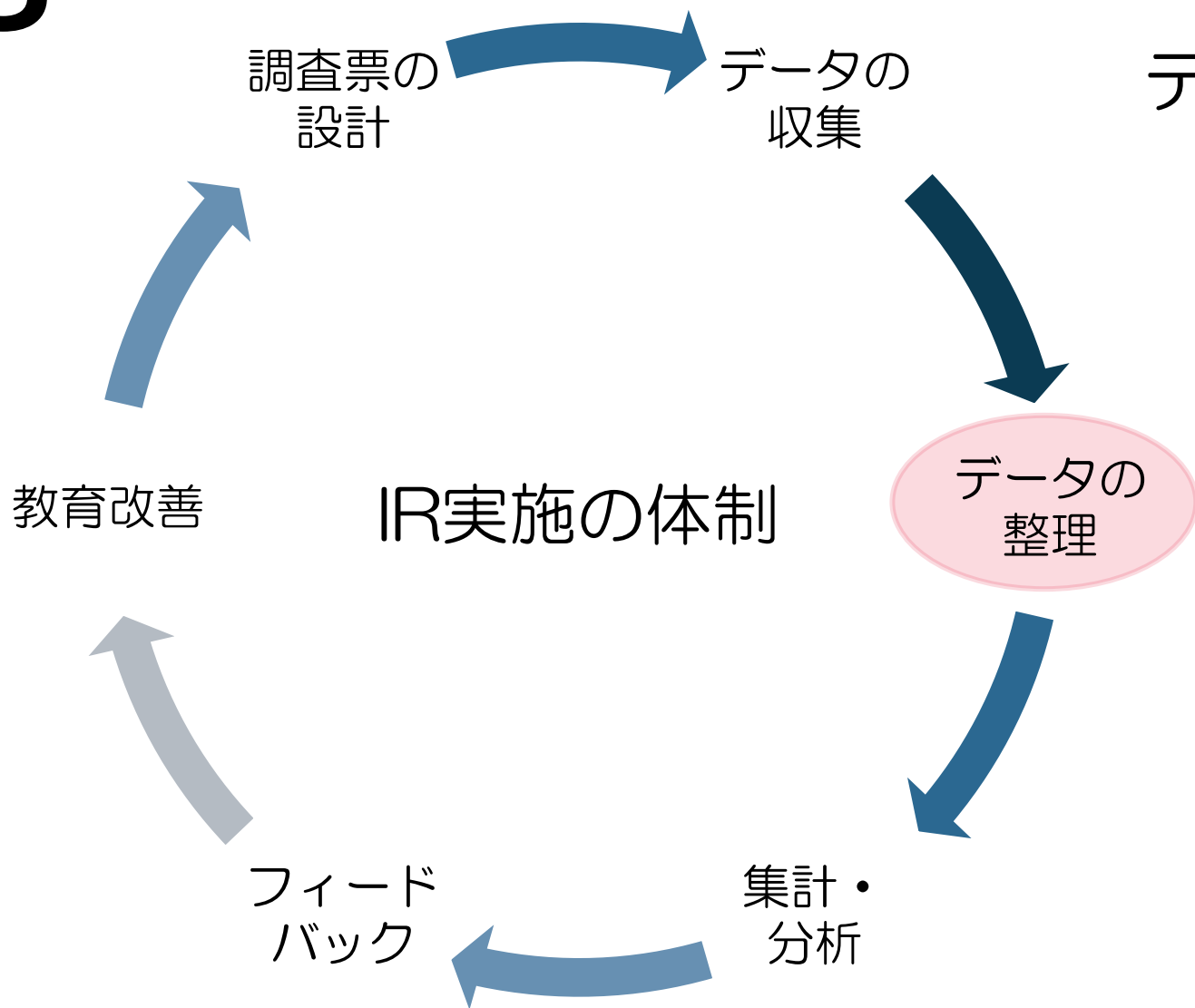
- Google Form を利用したことがある人には経験あるかもしれませんが、いろいろと不便な点が多い。

2. 集計データの出力が使いやすい

- あらかじめ設定した数値で出力できる
- Google Form は多肢選択の設問（チェックボックス）の回答の集計に適していない。

- まず無料アカウントで導入し予算があるなら有料アカウントがおすすめ

3



データの整理におけるポイント

- 数値への置換
- 対応表の作成



まずはExcelに出力する

氏名（漢字）	氏名（カナ）	学部・学科	学年	外出自粛期間の生活リズムについて、当てはまるものを選んでください。	在宅時のインターネット環境について、当てはまるものを選んでください。	自宅学習期間が続く中で「生活リズムが乱れること」にどの程度不安を感じていますか。
桐蔭太郎	トウイン タロウ	医用工学部	2	生活リズムを乱さず、規則正しい生活を送っている	容量制限なくインターネットが利用できる	どちらとも言えない
桐蔭はな子	トウイン ハナコ	スポーツ健康政策学部	3	生活リズムを乱さず、規則正しい生活を送っている	容量制限なくインターネットが利用できる	まったく不安ではない
桐蔭二郎	トウイン ジロウ	医用工学部	2	生活リズムを完全に乱している	容量に制限はあるが程度問題なくインターネットを利用できる	とても不安
桐蔭三郎	トウイン サブロウ	スポーツ健康政策学部	1	生活リズムを乱すことが多い	容量に制限はあるが程度問題なくインターネットを利用できる	あまり不安ではない
桐蔭春子	トウイン ハルコ	法学部	1	生活リズムを乱すことがたまにある	容量に制限はあるが程度問題なくインターネットを利用できる	まったく不安ではない

(1) 数値に置換する

■ 分析をスムーズに行うために、選択肢を数値に置換する

以下の設問を例にすると

「外出自粛期間の生活リズムについて、当てはまるものを選んでください。」

- 生活リズムを乱さず、規則正しい生活を送っている ▶▶ 4
- 生活リズムを乱すことがたまにある ▶▶ 3
- 生活リズムを乱すことが多い ▶▶ 2
- 生活リズムを完全に乱している ▶▶ 1

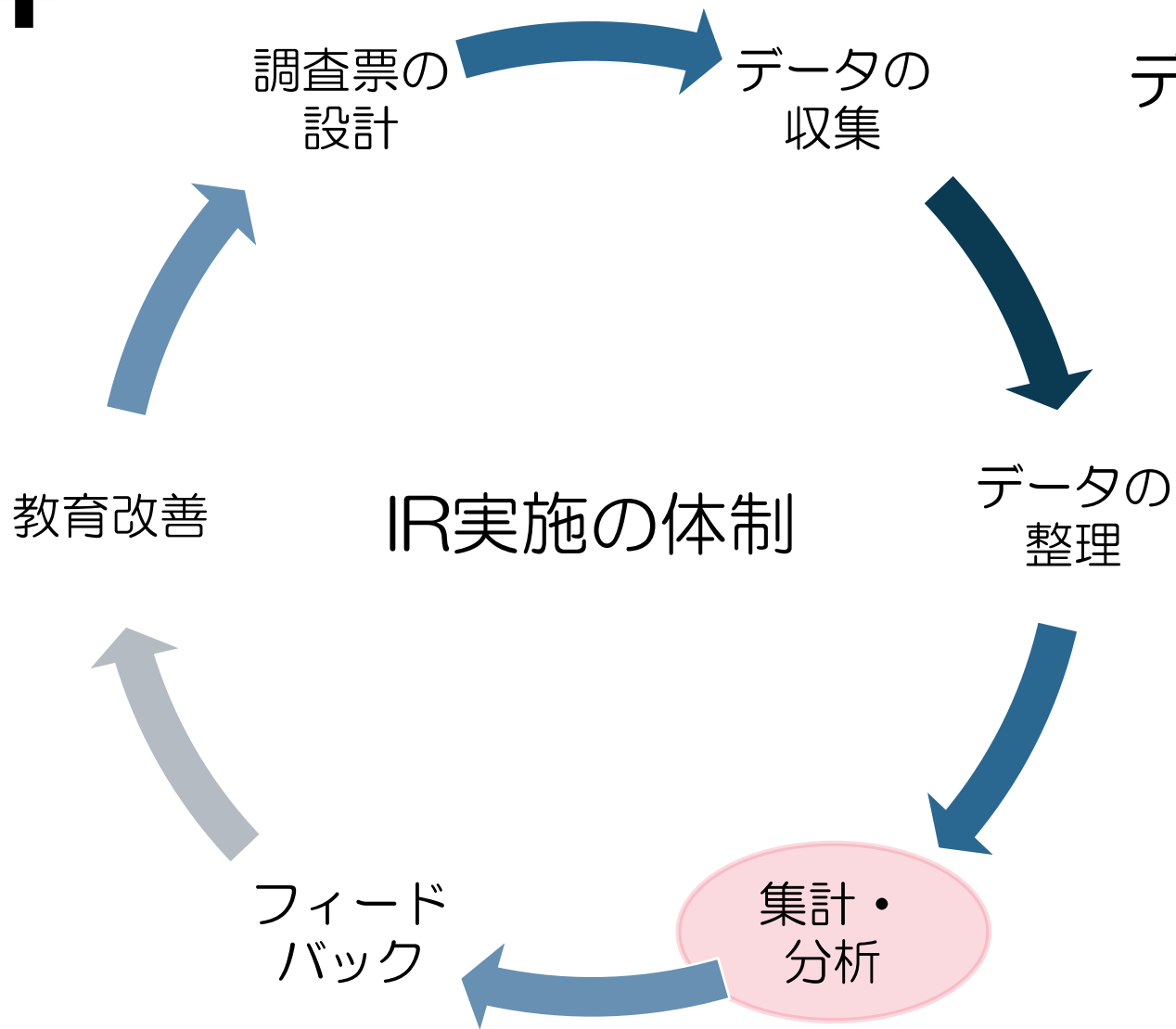
※一般的には数値が大きいほうがポジティブな結果と受け止められるが、設問ごとにどちらの数値を大きくしたほうが**わかりやすい**かを考える。

(2) 対応表を作る

- 設問と回答の対応表を残しておくことで担当者が変わっても「これなんだろう？」という問題が発生しない

設問	1	2	3	4	5
学部・学科	法学部	医用工学部	スポーツ健康政策学部		
学年	1年生	2年生	3年生	4年生	
外出自粛期間の生活リズムについて、当てはまるものを選んでください。	生活リズムを完全に乱している	生活リズムを乱すことが多い	生活リズムを乱すことがたまにある	生活リズムを乱さず、規則正しい生活を送っている	
在宅時のインターネット環境について当てはまるものを選んでください。	容量制限なくインターネットが利用できる	容量に制限はあるがある程度問題なくインターネットを利用できる	要領に制限があるため問題なくインターネット利用ができる状態ではない		
自宅学習期間が続く中で「生活リズムが乱れること」にどの程度不安を感じていますか。	まったく不安ではない	あまり不安ではない	どちらともいえない	やや不安	とても不安

4

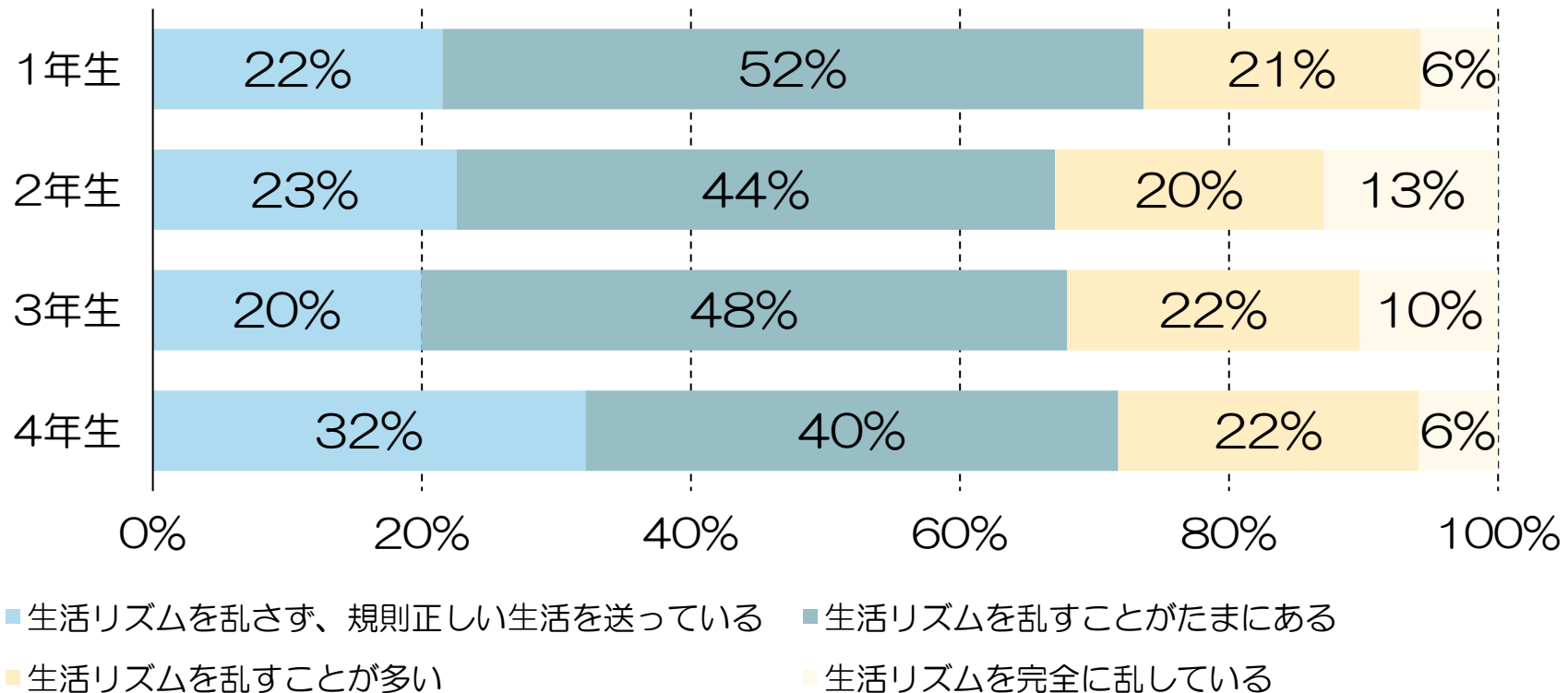


データの集計・分析におけるポイント

- 基礎集計
- クロス集計
- データをつなぐ

データを集計する① —基礎集計—

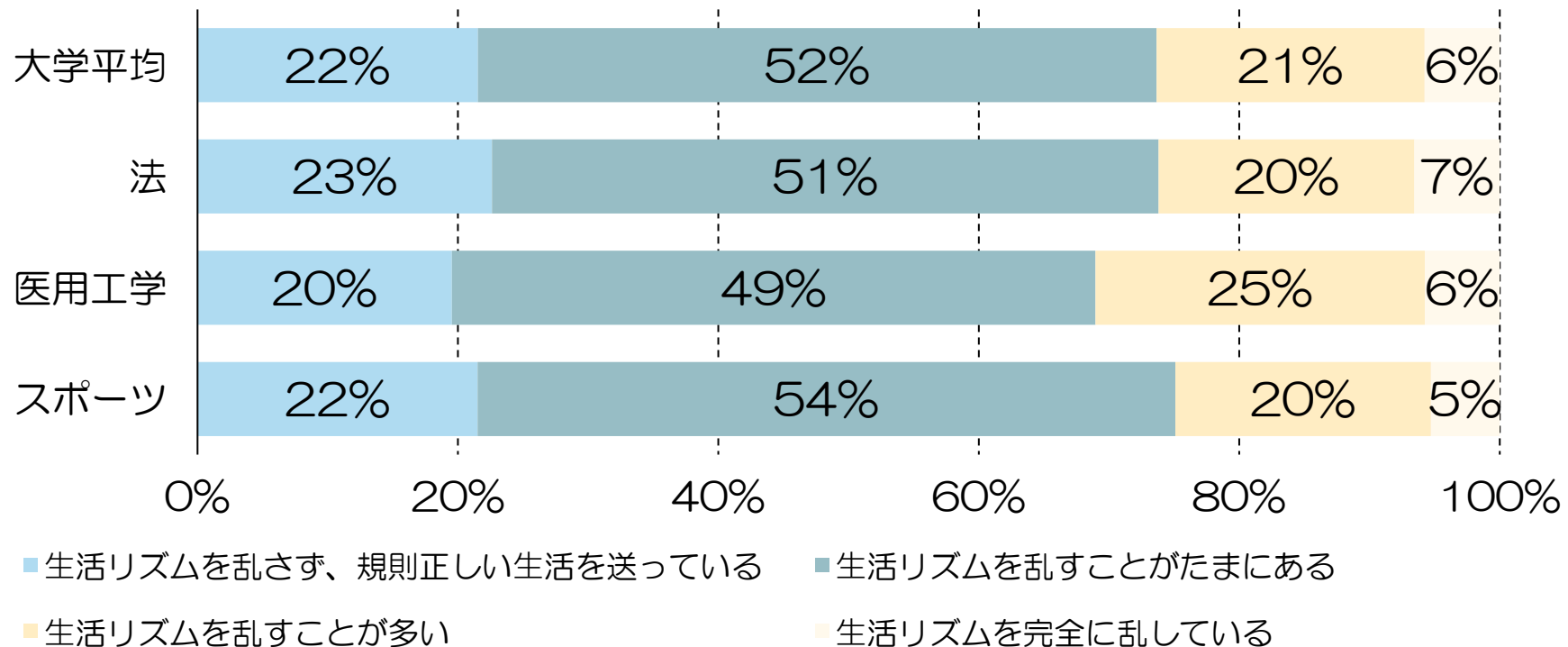
- 設問ごとに度数，割合等の基礎集計をまとめる
 - 明らかにおかしい回答を排除し，まずは速報用の集計をまとめる



データを集計する② ークロス集計ー

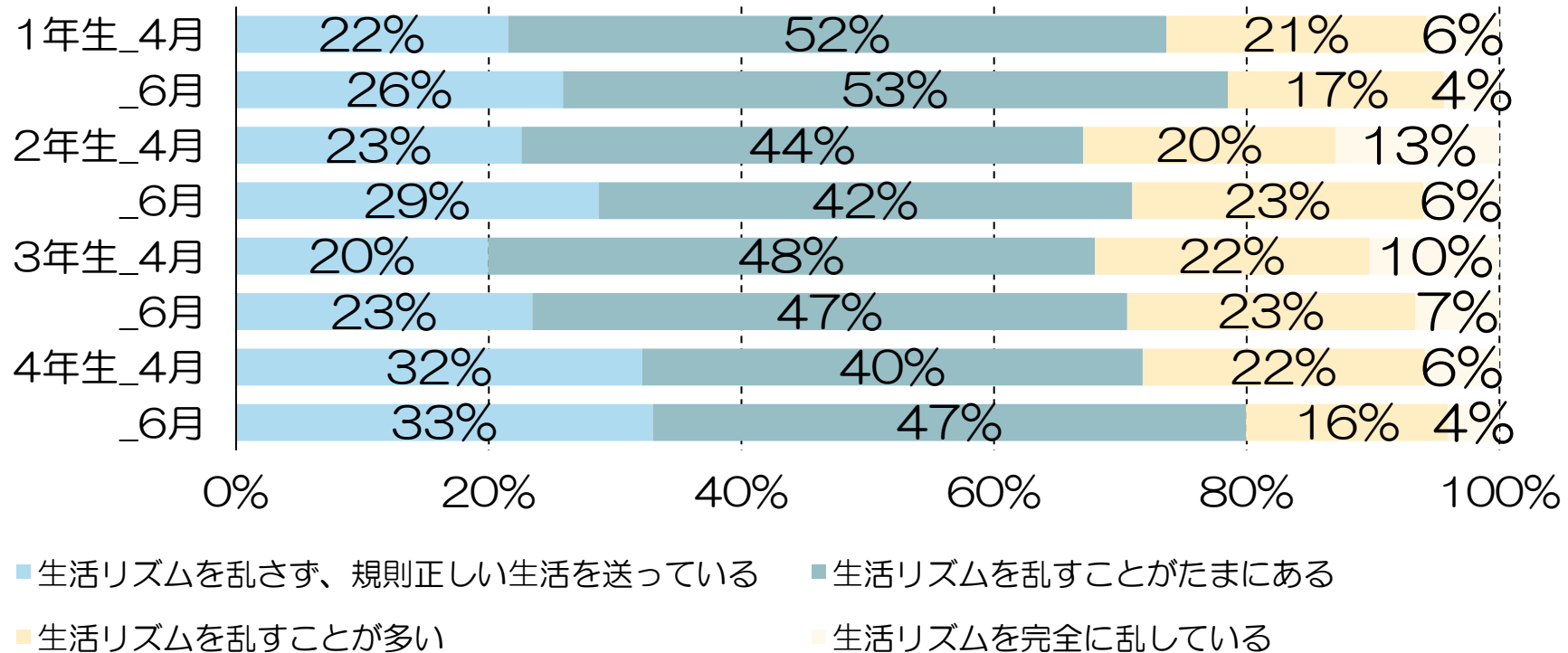
■ コース別の詳細なデータを返す

- 各教員が見て、自分事と捉えられるような粒度のデータを返す

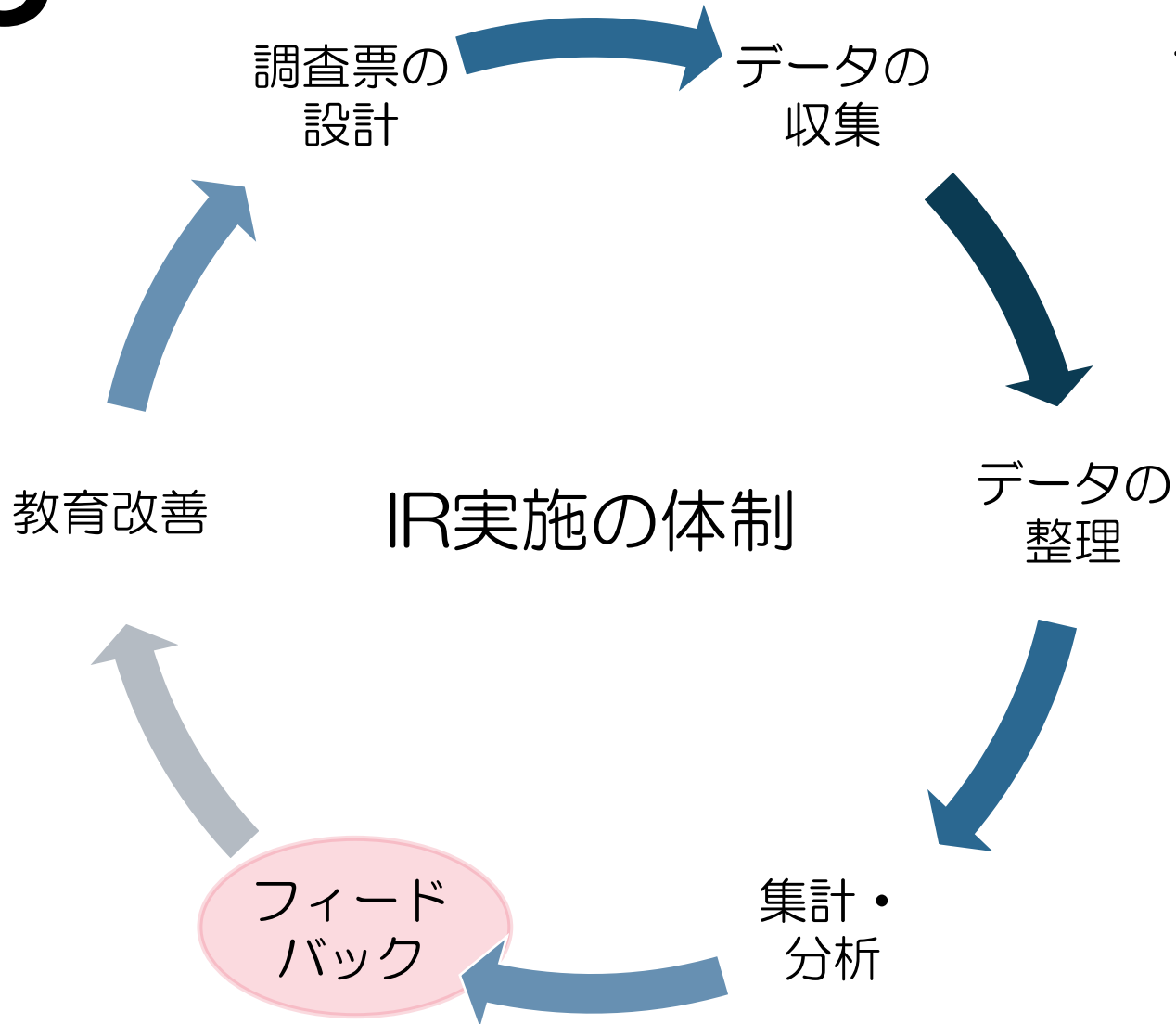


データを集計する③ ーデータをつなぐー

- 変化を追うために必要な縦断データ
 - まずは集団全体の変化をデータで確認する



5



フィードバックにおけるポイント

- フィードバック体制の構築
- 速報値の報告

フェードバック体制の構築

■ “速さ” が最も重要



この期間をできる限り短くする

■ そのためにもIR実施の体制を築くことが重要

- 調査の計画だけではなく、どのようにフィードバックを行うかについても事前に計画を立てておくことが重要

※調査への協力者（生徒・保護者）や外部への結果の公表における注意点はchapter 4で扱う



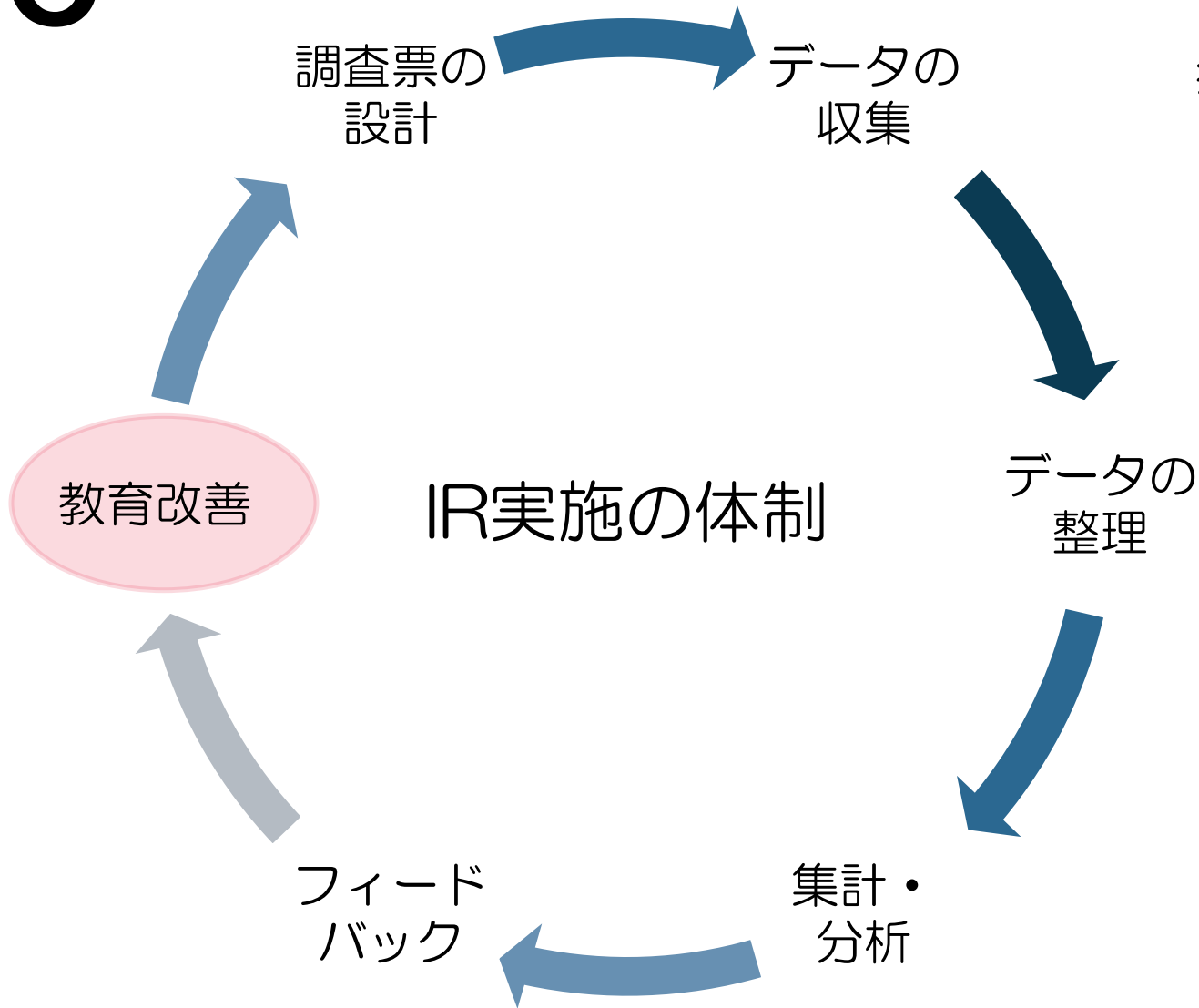
速報値の報告

- 完成した分析をフィードバックするのではなく、
分析のプロセスに他の教員を巻き込む

例えば

- 記述統計の図表などが完成した段階で**速報値**として報告する
- 分析者が時間をかけて分析する前に、
一人一人の教員から「**こんな視点のクロス集計を見たい**」や
「**この設問とこの設問の相関が知りたい**」などのコメントをIR担当以外の教員
から意見をもらう
- それによって教員全体でIRに対する意識を共有する

6



教育改善

本chapterでは詳しくは触れないが、教育改善につながる形で、データを分析し、フィードバックを行い、改善が上手くいったのかを確かめるために次の調査を行う。